ぽえ犬通信

ぽえ犬が歩くと詩がウマレル

第３号

2003年 6月17日
発行:cocoroom

COCOROOM

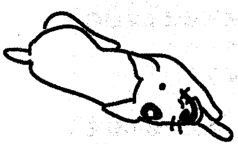
「何がどうなんだ」と言うから「だから行くのよ」と言った

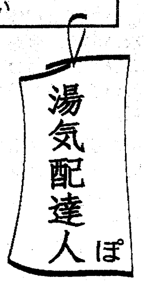
2003年05月31日、cocoroom正式オープン

cocoroom cafe

「いい仕事するために、しっかり食べなくちゃね」
と、ココルーム工事中から始まったまかないは、
大家族のようにテーブルを囲みます。
日替わり料理人の日替わりメニユウ。
基本はヘルシーなおウチごはんです。
純おかあさんの味あり、へんてこあり、アヴァンギャルドあり、、、。
現在は、事前に連絡をいただいた人数分をご用意しています。（ランチもあり）
今夜、夕ご飯を食べたい方は、お電話ください。
さて、シェフ、今日の献立は・・？

ココルームでは
実験的に
「ココルームカフェ」（仮）に挑戦
しています
チャレンヂャーなあなたなら
湯気を運ぶぽえ犬にあいにきてください





トンネルを抜けると、夏だった
あなたの背中も見えなくなる
雲のゆくえよりも、空になりたい

扉の向こうは　誰にもわからない

たいてい羽は背中についている
つみ重ねてきた時間が
あるとき背中で　羽になり
風をまきつけて　はばたく

歩いてきた背中の
見えない羽が　かすかな音をたてて
ちいさな風を起こして
透明な風が風を呼び　そして飛び立つ

「だから行くのよ」
天井をぶち抜いてでも行くと言う

（抜いたあと　後片付けしていくから
すこし遅くなるわ）

背中の羽ひらく
透明な羽音で

耳を澄まして

初夏の風

予感をたずさえて

2003年5月31日、ココから扉はひらきます

ここ3年でセックスした回数は？

ここ3　と書いて
こころ　と読める　習字された6畳の
畳の部屋で
わたしは　この3年間手を
つないで
手を振った男の背中について
考えている

13年前　石畳をつたって
男に逢いにいった

石の日陰は苔むしていて
同じ方向で濃い緑にすべる
一発で変換されることの
ない夏は　夏に
なってしまえば
もう戻らない

こころの
中の男は蝉か　蛍か

ぽえ犬

名前：ぽえ犬
居住地：ココルーム
年齢：お月さまに聞いて
趣味：おさんぽ
職業：夢占い

湯気配達人のお手紙

「日本人の8割は、紅茶といえばティーパックの味を思い出す」のではないだろうか。
イコール、「紅茶はあまり好きではない」のではないだろうか。
実は私もそうでした。
マダム御用達のティーサロンで働くまでは------

・・・・・なんだかヘンな宣伝文みたいになってしまいましたが、
つまり、「良い茶葉で、愛情込めて、注がれた紅茶は、あまり飲まれていない」と。
美味しく入った紅茶は、いつか、母が何気なく煎れてくれたお茶に似ている。
とてもやわらかで、暖かみのあるお茶。
私の目指すところは、そういう紅茶。
上品さを売りにするところもあるが、お茶はやはり、くつろぐためのもの。

くつろぐために、ココで一杯いかがですか？

cocoroomドタバタ日記　　丘田イージマン

「この壁紙、きったないなぁ」「ちょっとだけ剥がしてみよか」ぴろ♪
cocoroomをめぐる大騒ぎは、実に安直に幕をあけた。
我々の前に入居していた中華料理店が撤退したのが1999年7月。
カレンダーがそこで止まっている。廃虚の冷気に背筋を寒くした。
「な～んも手をつけないでおくもんね」なんてかる～く考えようとしていた我々。
しかし世の中そんなにあまくはなく、どうもこのままではオープンできない流れのようであります。ああ。まずは天井をなんとかせねば。
客席もどうにかしなければ。
備品類をどうするの？
電話回線も当然いるよね。。。
それにしてもcocoroomって、やたらデカイよなぁ。
油まみれの部屋があるよ！すごい数の不燃ゴミがあるよ！
おいおい、もうワークショップやイベントの予定をいれちゃってるよ！
おろおろおろおろ。うお～さお～。
気付けば、もはや生きた心地のしない日々。メシも味がいたしませんわぁ。
迷ってる暇はない。やるしかない。
地味に壁紙をはがし、こつこつと電気配線を確認し、椅子や机をあちらこちらに移動させ、じっくりペンキを二度塗りしいしい（キモノ姿のペンキ詩人約一名）、
だんだんと手伝いに来てくれる人の数が増えていく（感謝！）
みんなで同じ釜のメシを食い、夜おそくまで頑張りあった二ヶ月間でした。
晴れて迎えた５月31日のオープニングパーティ「ぽえ犬わん」。
花とコトバが咲き乱れるcocoroomのパントリーに立った私は、これから始まるだろう新たな大騒ぎの予感に武者震いひとつ。ぶるっ！

cocoroomにころころ翔ける心意気

コロコロコロロ------。

SINGER。
うたう足踏みミシンを手で押して、
フェスティバルゲートをくぐる、私。
ゴロゴロゴゴゴ------。

デルピス・ザ・コースター。
ここの花形、ジェットコースター様が、
私を驚かし、通り過ぎてゆく。

そして今日から、晴れて私もここの住人。
住まいは4Fココルーム、の隅っこ。

うかうかしていると、ほこりに居場所をとられます。
ウキウキしていると、ぽえ犬がよって来ます。
ぽえ犬は、それは不思議な犬でして、
楽しい所には必ずやって来ます。
イチバンほころんでる人のヒザの上で眠ります。
私の笑顔を幾回なめてくれるのか。
そして、あますトコロなく平らげてくれる日を夢見て、
ココに通う。

コロコロコロロ---------------。

ココルームカフェスタッフ　小崎泰嗣

東京より〈メルマガ「詩の灰が降り積もる夜に」より抜粋〉　/いとう

土曜日は大阪に行って,ココルームのオープニングパーティ兼上田假奈代CD発売記念ライブ見物。

ご飯美味しかったです。
立食形式なのだけれど、どれも食べやすいように、オムスビみたいになってたり、ラップでくるんであったり。そういう、気配りが見える料理。

ライブ自体は、もう、フツーに（笑）、安心して。
で、関東と関西の文化圏の違い、というか、
デフォルトの部分での意識の違い、みたいなものを、ここでも感じた。
関東文化圏の人が見たらつまらないという意味ではなくね。

「装置」と「癒し」という言葉でも対比できるんだけど、
たとえば今回のライブで言えば、映像に合わせてリーディングしたり、
客席から他の人が飛び出して舞台に上がって、ダンスと詩が一緒にコラボしたり、もちろんそういうのは東京のリーディングシーンでもよくみかけるけれど、それを見る／見せるという意識において、デフォルトの部分での違い、みたいな。

少し考えてたんだけど、ボケとツッコミなんだよね。
関西（特に大阪）の人は日常会話もボケとツッコミになってるって、
よく言います（／言われます）。
その視線はもちろん、非関西（特に関東）からの視線であって、それをしてる人たちは別に、ボケとツッコミを意識してやってるわけじゃないと思う。それが文化圏としてのデフォルトなんだろう。
そのデフォルトの違いが、そういう視線を生み出す。

関東の文化圏から見れば、それは「付加」なんだよな。意識の上では。
その「付加」を楽しむ。あるいは、「付加」がジャマになる。そんなスタンス。

で、関東の文化圏から見れば「付加」であるものが、関西ではデフォルトに含まれている。
あるいは、「付加」が入っていることが関西の文化圏ではデフォルトになる。その差が違いを生み出してるんじゃないのかなぁ、と。

だから逆に、（大げさに言えば）関西の文化圏の視線から見れば、関東の文化圏におけるデフォルトのスタンスを、「マイク持って突っ立って喋ってるだけ」と感じることもある。そんな。
そういった差が「何が面白いのか全然わからへん」という言葉とつながっている。そんな。
ま、もちろん、個々人の意識はもっと多様なので、こんなふうに一括りにはできないんだけどね。
文化圏というかなり曖昧で大きな括りで考えた場合に、そんなふうにね。

あと、面白かったのは、100人くらい入ってて、リーディングで、個人のライブで、それだけ人呼べるってのももちろんすごいけど、
その中で、いわゆる詩関連の人たちが、俺以外いなかったこと。
こっちのほうがすごいし、面白いと思った。いろんな意味で。

シの灰が降り積もる夜に　http://poenique.jp/

ぽえ犬わんわんレポート　花吹雪の犬小屋に朝が来る

5月31日cocoroom opening

日々の営みを旅立たせる肉声にふれて（「ぽえ犬わん」体感レポのつもり）
足立大輔

かたかたと回る16ミリの映写機。ぐらぐらと壁を揺らすジェットコースターの車輪。
ココルームはやさしい闇につつまれ、誰もが“声”を待ち受けていた。もちろん僕もそのひとりだった。ココルームのオープニングと上田假奈代のレコ発を記念して開かれた「ぽえ犬わん」。幕開けは「声は呼吸だから。呼吸は生きること」と語る詩人のライブ・リーディングだ。

やがて待ち焦がれた声がとどく。上田假奈代だけが持つ声。やわらかな腰を持った声。やわらかな声で運ばれる言葉が、空のない風景に、幻の雲を描いてゆく。言葉と言葉のあわいの空気が、聞く者の想像力をゆるゆるとはぐれてゆく。注意深く抑制をきかせた肉声。オフとオンとを微妙にうつろわせる声のビート。それは饒舌な指となって心のふくらみを撫で、湿った影となって喉もとを苦くくぼませる。

上田假奈代は、愛しそびれた旅を続ける詩人だ。日々の営みを旅立たせ、終わりのない物語を僕たちに伝える。食べ残されたリンゴの眼差しで、台所に立つ水仕事の爪先で、上田假奈代は日々の足元と彼方を見つめる。彼女はなぜ詩を書くのか。詩を読むのか。詩でもって何とどう闘うのか。僕はそれを心から知りたいと思う。ひとつには、これほど報われ難い“労”の多い詩人を他に知らないからだ。これほど戻る場所を持たずに動き続ける詩人はいないと思うからだ。だから僕はただその声に身を委ね、僕なりにその答を探ろうとする。永遠に分かんないわよ。彼女はそう言うかもしれない。

「それぞれの人生はそうして始まってしまうものなんよ」。誰かに向けられた言葉は、誰のものでもなく、どこにも向かわない言葉が、僕の奥深くに入り込む。

ポエトリーリーディングとは、完成した作品を読み聞かせるものではない。肉声によってどんなふうに何を伝えるのか。詩人と聞き手とが有形無形のものを共有しつつ、言葉からあふれ出た波動を生む。そのライブな行為そのものが、いわば“作品”なのだ。上田假奈代はそのことを最もよく分かっている詩人でもある、と思う。

ココルームという魅力的な、自前の場の誕生によって、彼女の“作品づくり”の可能性はさらに広がっていくに違いない。ここを拠点として、どんな新しい試みがなされてゆくのか、始まってしまった営みの光と影を、どんな形で伝えとどけてくれるのか。「ぽえ犬わん」で待ち焦がれた時間はプロローグに過ぎない。未知の上田假奈代と出会う旅先のドアは、ようやく開けられたばかりだ。

お客さまと汗したスタッフから声が届きました

空想シーソーに揺られて　山村けいこ

あたらしく生まれたココルーム。暗くて不思議な空間にどきどきどきどきしていたら、16ミリ映画上映がはじまった。一部の情景はホームページで読んで知っていたけど　目の見えない私には何のこっちゃわからんやろう　まぁかなよさんの言葉を何となく聴いとこう　と思って聴いていたら　なぜか情景がすごくよく思い浮かべられる。
どんどん想像がふくらんでいく。淀川の河原でシャボン玉をとばしてるお母さんと子どもたち　幸せそうなその光景を眺めて、自分の記憶の糸をたぐり寄せる女のシャボンの香りが部屋を包んでいた。
心に残ったものは哀しく重たい感触。
上映が終わってからのかなよさんの言葉を聞いて嬉しくなる。
あんな風に情景が思い浮かべられたのは、目の見えない私のために即興で情景を浮かばせる言葉をいれてくれたからだった。
うれしくて一人で笑っていた。
かなよさんの言葉と声　プディング斎さんのお料理
ぽえ犬くんのおもてなし　などなどで　ココルームに集まった人たちがつながっていって、私の中では想像の世界が広がっていった。

台風も蹴散らす　神通力　スタッフ/アサダP太

場内誘導係を仰せつかりました。
あまりの素人さ加減と、あまりのご来場者の多さに
右往左往するばかりでしたが
これからが楽しみなココルームのオープニングに
携わることが出来て楽しゅうございました。
これから　たくさんのひとが　ことばが　集まる部屋となることを祈って。

スタートは朝から　スタッフ/河野宏子

わたしが13歳から23歳まで住んでいた実家は、喫茶店をそのまま住居にしたレンガの家。
厨房がそのまま台所になっていて、冷蔵庫は業務用の銀色扉。
セーラー服を着た中学生のわたしは毎朝ムーディーなあかりの下、カウンターで朝食をとり、登校するふしぎな思春期。二階には両親の仕事用オフィス、大学時代には屋根裏にちっちゃな暗室もつくった。
最近は実家に帰ると、臆病な愛犬ビビが出迎えてくれる。
この光景、どこかにそっくりではないか？
そう、こんな生い立ちをもつわたしにとってココルームはほんとうに、ほっとする場所なのです。
当日の仕事ぶりはさておき、うまれたての懐かしい場所のスタートに立ち会えたことがとてもうれしい。

人間の器官の中で、最も エネルギーを消費するのは脳である。

視力低下著しく「こころる一む」だと思いこんでたスタッフ/薔まりこ

今日履く靴下・電車の時刻・向かいに座った男性の職業・書類の提出期限・昼食のメニュー・ピアノの鍵盤・財布の小銭・小説の作者・来週のスケジュール・・・

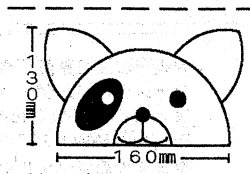
だが、更にエネルギーを消費する器官があるらしい。
やわらかい日差し・靴下の花柄・妊婦に席を譲る男性・うどんの上の七味と葱・ゴールドベルグ変奏曲・小さな失恋・業務連絡後のお疲れ様・群青色の空・メール送信者の名前・・・・

今日動いたココロは幾つ　今日見つけたココロは幾つ
明日に届けるココロは幾つ

ｃｏｃｏｒｏｏｍ　発進おめでとうございます。

であいがしらで、ごっつんこ　スタッフ/服部まみち

わたし、まみちーぬ(まみち犬。マルチーズじゃないわよ)
最近、ぽえ犬君っていう、ココルームの看板犬と知り合ったの。
ココルームを知らない？じゃ、今日は案内してあげる。
フェスティバルゲートの右塔側のエレベーターを4Fで降りて右へ進むと、ほら、ぽえ犬君の看板が見えるわ。ここがココルーム。入って右側がカフェ。照明がひかえめで落ちつくでしょう？おすすめは紅茶。これからもっと美味し楽しメニューがふえていくんだって。
外で流れてる童謡とジェットコースターの振動がなんだかノスタルジック。でも夜は静かよ。お酒もあるし昼間とは違う雰囲気が楽しめるわ。(ウットリ)そして左側。こっちは舞台と客席なの。
5月31日のオープニングイベント『ぽえ犬わん』では、朗読ライヴ、映画上映、パーティもここであったのよ。100人以上、人が入って立見がでたくらい。平常なら40席くらいかな。もちろん椅子は移動できるし、音響、照明も整っているから、フリースペースとして自由に使えるわ。
ライブラリーにも注目。コトバや詩の本、CDを中心に置いているの。カフェでお茶しながら、青くしろくユウララと、詩の波間を漂う・・・。
日常からちょこっと離れたこんな時間って、とても大切だと思わない？
あら、プリンの焼けるにおいがしてきたわ。
じゃ話のつづきはカフェで、中国茶でも飲みながら。



あなたがおちこんでいるときも
ポエ犬は　いつもえがお
目をとじて
ポエ犬になろう　イラスト：ヒロタコ

■ポエ犬帽子 材料 ●白い布　●ピンクの布　●黒いフェルト（オレンジでも可）●ボタン/白　黒　●糸/白　黒　●厚紙

ライトハウスレポート第4回　飯島秀司

前回まで：視覚障害者施設・日本ライトハウス(大阪市鶴見区)でのワークショップ。『贈ることば』の歌詞を自由に朗読する。それは自分の声、ひとりのことばと出会いなおす行為なのか。

●声とことば
4人の視覚障害者と詩人たちの間に不思議な交感作用が起こりはじめました。「光」と「影」ということばで起こり始めた反応に呼応して、わたしもことばを返します。「ひかり」「日曜日のひだまり」。

誰がつぶやいたか、「ひかり」「朝の陽のひかり」。
絶え間ない木霊のようにハミングが体育室を満たしていきます。
かなちゃんは朗読をタダッチにふります。タダッチの背後にまわり、おだやかに励ますかどっち。木訥とした語り口で語りはじめたタダッチにユーキが茶々を入れますが、タダッチは負けない。
「ゆうぐれの町の」。誰かがつづく、「ゆうがたのかえりみち」。
「ひとりぼっちのかえりみち」と呟いたのはテッチャン。
わたしは思わず「ひとり」と反応してしまう。(しまった)
その時、落ち着きがなかったユーキの静かな生身の声をわたしたちは聞いたのでした。「ひとり」「ひとりぼっちはいやだ」。

わたしは自分のことを考えていました。自分の心に閉じ込めていた牢獄のような行き場のなさを。
ひとり。ひとりぼっちの夜の連なり。鉄柵から漏れてくる月のひかりを。

気がつくと、カナチャンはヌマサンの側にいました。
ずっと頭をうなだれ、ほとんど反応のなかったヌマサン。
何の縁で、わたしたちはここにいるのか。
震えつづける木霊の中、セッションはまだ終わらない。（つづく）

※ワークショップの間、全員があだ名で呼び合いました。

上田假奈代の**ぽえ茶会**

着付け教室は、月に2回、参加者と日程調整して、なるべく全員参加をめざしている。全員がキモノ姿になると、照明を落して、華やかな客席を前にリーディングがはじまる。

着付けは、けして難しくなくて、着ることをくり返せば、手が勝手に動くようになる。おそらく、たぶん、3ヶ月で40回くらい、余裕で覚えられるはず。でも「着れる」までが、苦渋の道のりなのね。
着れるまでは、誰かについてもらわなければ、教則本を何度読んでも、わからない。
だから、着付け教室なり、キモノバイトするなり、かなり強制的にキモノに親しむ必要があるのね。
「キモノの日」そのための、着付け教室なのよね。

こんどの7/18（金）のぽえ茶会は、着付け教室ではなくて、怪談話。真夏のハナキンを生ビールと冷やっこで、涼んでもらおうという企画よ。男前の役者と、わたしたち姉妹が怪談話をする。30歳過ぎた姉妹が舞台にあがるだけで、サムイでしょ。

ぽえ茶会は、ひらめきでいろんな形式をとりながら変化する。
あなたの「茶会」、やりたくなったら、ココルームに企画持ち込んでください。

ポエムダイエット理論構築への道vol.4

ダンシングダイエット　上田のぞ美

ダイエットは楽しんでやらなきゃ続かないと思い、私が実践しているのがダンシング・ダイエット。
ただ単に、自宅で好きな曲をかけて踊るだけなんですけど。
でも楽しいから一石二鳥。（冬場はあったまるので三鳥。）

これをポエムダイエットに応用してみよう。
音楽なら「サタデー・ナイト・フィーバー」並みにノリノリの曲で激しく踊るが、ポエムの場合、ヨーガや太極拳のような静かな動きが合うと思う。

例えば。。古典的な俳句でいくとすると。
「古池や　蛙とびこむ　水の音」
これを体であらわす。蛙飛び込みのポーズはなんとなくできそうだが、古池と水の音のポーズは？。
分からんけど、なんとなくやってみる。
繰り返したり、早くしてみるとリズムもついて、結構ダンスっぽいかも。

さらに。。お気に入りの詩を朗読しながら、踊ってみたり。

お稽古だけでなく、人前でやるのがもっとよい。
お客さまの視線に、ウエストも太股もピッとひきしまる。
指先まで緊張して、脳は痩せ痩せホルモンが分泌しているはずだ。
私の姉は、涼しい顔で朗読しながら、足先まで汗をたらしながら舞台で朗読しているらしい。

しかし。。汗をかいた後のビールはうまい。
つい飲み過ぎるので、私にはあまり効果がないのでR。

※ぽえむダイエット理論構築にご協力してくださる方を大募集中。

today's 4/365
「自分で選んだ道やからな」
採取場所：天王寺駅そば
採取日時：2003年6月06日
昼下がりのアーケードを手をとられてあるく老婆とおばちゃん。
白いブラウス姿の老婆が言った。誰もが、選んだ道を歩くのだ。

ライブラリよりわたしの1冊 vol.4 担当:上田假奈代

ライブラリ「ことばと声の資料室」お茶と一緒にゆっくりご覧ください 寄贈も大歓迎です

水　泳
荒木昭好　著　成美堂出版
人生カナヅチなあなたに:★★★

「図鑑コーチ」シリーズの22番目だそうで、他にはヨットやスクーバダイビング（原文ママ）などがあるらしい。
昨年、東京のお茶の水の坂を下った古本屋で購入した。
ココルームの打ち上げの日、赤れんが倉庫アポリアの音楽家・小島くんが、夕方に現れて、さっそくボトルを開けている。ライブラリの前で数杯目のグラスを傾けて、この本を手にとって、しばらく眺めると「これ、音楽になるやん。貸してーや」と言った。
「ごめん、ココルームのライブラリは閲覧だけなんよ。絶対返してくれる？」茶色縁の眼鏡奥をのぞくと、返してくれなさそうなので「ココルームに通いなさいな」と答える。
壁にもたれながら、小島くんは「これ読むと、ますます泳げなさそうやな、とくにバタフライ」と呟いている。
「ココルームの酒コーナーのアドバイザーになる」と酔っぱらいながら胸をたたく彼は、ココルームに通いつめ、泳げるようになるのか。音楽が一本できあがるのか。
それとも、小島アルコール濃度が高くなるだけなのか。

のぞちゃんの**詩のオーケストラ 和でポン！**

能でポン！　上田のぞ美

相撲好きではないが、「大相撲ダイジェスト」の始まりの曲が好きだ。
家にテレビがないので、今もやってるのか定かではないけれど。
「カンカンココンコカンカカン・・」
「ふれ太鼓」という、今から相撲場所が始まることを知らせる太鼓の音なのだそうだ。

突き抜けて乾いた音とリズムのテンポがエキサイティング。
ある種ラテン的エモーションを感じる。

太鼓といえば、先日、能のワークショップに行って、間近で鼓の音を聞いて感動したっ。
「いよぉ〜っ、ポン！」「はっ、カン！」「いよっ、カン！」「ほっ、ポン！」

声と音と、そしてその間に、勢いと力強さが集中している。とにかく、かっこええのよ。次回のワークショップでは、その「囃し」を体験できるということで、期待大。

今年の夏は、能をみにいくつもり。初体験。ひと夏の。
うだるような暑さのなかで、張りつめた空気を感じてみたい。

わたしとパレスチナの距離〜セクシャルマイノリティーとしての経験から

レポート：中西美穂

本オープン前の5月17日（土）に、フェミ系クイア・アクティビスト日比野真さんを講師に招いた。参加者は13名。机をコの字型・ミーティング風に配置し、豊富な映像と資料と共に話しに聞き入った。

パレスチナ平和運動のひとつである国際連帯運動に参加した経験がはじめに語られた。「国際的に行われている平和活動の根底には、フェミニズムをはじめとするマイノリティーの権利拡張が共通認識としてある」
「参加への一番の動機は“素敵な活動家に会えるよ”という友人の言葉（“出会い”を期待した）」「（日本からパレスチナで活動するための）登録は、まるでスキーツアーに行くように、インターネットのフォーマットに従って送信ボタンを押しただけ」「現地での活動は、パレスチナ人の家庭に寝泊まりし、病院に行く人に付き添ったり、壊された家があれば見にいってデジカメに写したり、家を壊しかけているイスラエル兵がいたら“どうして、そんなことするの？”と直接問いかけたり。」「イスラエル兵がいない時は、皆陽気に道に出て来て騒いだりするんだよ」etc‥‥。

また難民キャンプで24時間後にイスラエル政府に拘束された日比野さんは、約10日間の拘留の後保釈された。その後、テルアビブではイスラエルの日常というものを経験することになる。
「ヨーロッパ風のオープンカフェが住宅街にある。そこでは、パレスチナ問題がまるで遠い非日常のようだ。」「セクシャルマイノリティーパレードは老若男女が楽しそうに参加し、レインボーフラッグに混じってイスラエル国旗がはためいていた。パレスチナ側からみると、イスラエル国旗は“占領軍の旗”であり、あまり見たくないものだ。セクシャルマイノリティーのアイデンティティを肯定するレインボーフラッグは見るとうれしい。この二つが共に並んでいることはショッキング。」「“ウーマン　インブラッグ”と“ブラックランドリー”の二つの活動は黒を基調にしている。白と青の爽やかなイスラエル国旗や、明るいレインボーフラッグの中に、喪を連想させる黒がある。」etc‥‥。

活動／運動（アクティビズム）というと、インテリジェント言葉で紡がれた理論につぐ理論を、私は勝手にイメージし、私の日常（生活の為の労働の日々や、生理痛や恋愛）からは遠く離れているように思えていた。
しかし、日比野さんが語る「色」「コミュニケーション」「フェイス　トゥー、フェイス」といった言葉は、私の日常から滲み出て来きて止まない「現代芸術的な何か」を語る時とモチーフを共有する。

一見、アートと関係のない催しのようであったが、根底の部分でアートそのものとテーマを同じくする、しかもそれをあえて言語化する貴重な時間だったといえる。

cocoroom SCHEDULE JULY AUGUST

■ワークショップ・声
7/8、22、8/12、26 すべて火曜
19:30～ ¥1,500
楽しく真剣な声についての実践と試行錯誤
ノンジャンル!参加資格制限無し! 1回完結!!
講師：門田剛（officeHAKUA）
➡ officeHAKUA（09082152925/fax:06-6350-5226
kadotatakesi@ezweb.ne.jp)

■詩のオーケストラ@ワークショップ～こころの果実
7/5、19 8/9、23 すべて土曜
19:00～ ¥1,000
ゴスペル～読経～ポエトリーリーディング！
声とことばの即興響の旅、あなたも加わってみませんか。
講師：イージマン
➡ イージマン（ezman@nifty.com) tel.06-6636-1662

■上田假奈代のぽえ茶会vol.5「キモノと詩と朗読」
6/21土 19:00～ ¥1,500（お茶とお菓子つき）
日常着物着付け教室のあとには、
オープンマイクイベント 出演者募集中!

■上田假奈代のぽえ茶会vol.6「怪談」
7/18金 19:00～ ¥1,500（生ビールと冷やっこつき）
出演：上田假奈代 上田のぞ美 小崎泰嗣
➡shitacocoro project（info@kanayo-net.com）
tel.06-6636-1662

■第１回全日本朗読シンポジウム
9月14日(日)
➡ cocoroom@kanayo-net.com 06-6636-1662
開催決定！全日本ですわ。はい。

womens-performance-art-osaka
http://www.womens-performance-art-osaka.jp
officeHAKUA
詩のオーケストラ
http://www.kanayo-net.com/si_oke/index.html
http://www.kanayo-net.com

■women's-performance-art-osakaフリンジ企画／2
女性専用!?
～韓国のアーティストによるレクチャーとプレゼンテーション～
6/22(日) 13:00～18:00 free
韓国のFAN（フェミニスト・アーティスト・ネットワーク・コリア）に関わる女性アーティストたちが来日。その特色ある活動の一端や、個々の仕事を紹介。※アーティストの話に耳を傾けてくださる方は、どなたでも御覧いただけます。※韓国語及び日本語のみ。
主催：women's-performance-art-osaka
➡前日まで 09039997282(中西) 当日tel.06-6636-1662

■写真の勉強会【実践のみ】
6ツ切り(20×25cm)と全大紙(50×60cm)に焼きつける
7/12（土）10:00～21:00 ¥2,000（＋材料費¥1,000程度）
募集人数：7人（先着順）
持参するもの：撮ったネガ（白黒、カラー、サイズ自由）
職工長：ふるかわじゅんいち
申込み：cocoroom tel.06-6636-1662

『 w a l k a r o u n d ! 』 Paragraph #3

さて！今回のお散歩は宣伝を導入としますね・・・・
恒例となりましたcocoroomの「ワークショップ・声」では
楽しさへ向けての<厳しさ>をも体験してもらっています
＊左記スケジュールをご参照ください

声を出すことの何が一体<厳しい>と言うのでしょうか？？？

声を生み出す声帯はなんと<筋肉>なのです
声帯を振動させる呼気を発生させるのはやっぱり<筋肉>です
それらの<筋肉>の部位は直接見て確かめることができません
だから鍛えたりあるいは休めたりするのが難しいのですね

「声が小さい」「息が短い」「聴き取りにくい声」とか・・・・
「嗄れやすい」「自分の声が嫌い」「とにかく自信ない」とか・・・・
「朗読が上手になりたい」「魅力的な声が欲しい」とか・・・・・・・・
<筋肉>を用いてどうやってこの課題に挑戦しましょうか？

今回はその<厳しさ>にひとまずキーワードでお答えします
『リラクゼイション』『ウォーミングアップ』『イメージ』
『声にまつわる固定観念から自由になる』最後は『楽しむ』！！

ワークショップ・声 かどたたけし/officeHAKUA/劇作+舞台演出+俳優

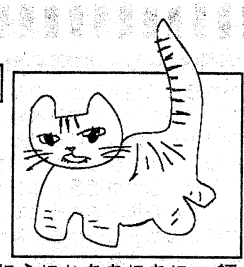
cocoroom寄付をつのっています
運営管理のためにご寄付いただいた方には、
お名前を「ぽえ犬通信」に掲載させていただきます。

振込先
●三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
cocoroom 代表 ウエダカナヨ
●郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

佐々木治さま、田村敏也さま
佐藤宏道さま、七五三木聡さま
宮前のんさま、小暮宣雄さま
田村智恵さま、服部聖一さま
足立大輔さま、北辻稔さま
金岡史夏さま、橋本敏さま
上田假奈代後援会より
寄付をいただきました
ありがとうございます

もーれちゅ！マウス絵道場！
～詩のオーケストラサイト共同企画～
http://www.kanayo-net.com/si_oke/
へなへなマウス絵を描いてjpgで送ってね
→まうす絵師範 ezman@nifty.com

にゃあ（のぞ）→



師範ひとこと
「おいにゃあ
にゃあよぉ
あほなこぉやなぁ
にゃあ
あほやけなぁ
あほやけどぉ
かわいらしいこぉや
にゃあ
ふびんなこぉや
にゃあ
にゃあはえなぁ
にゃあ
ごろごろしてゃぁ
ごろにゃちゅう
にゃあっちいっとりほれ！
にゃぁ
おいでにゃぁ

関連情報

■詩の学校（應典院校）ポエム道場
7月2日・16日
8月6日・20日 すべて水曜 19:30～ ¥1,000
●番外編「それから」墓地で詩作と朗読を
8月1日（金）18:00～ ¥1,000
講師：上田假奈代
at 應典院 http://www.outenin.com
大阪市天王寺区下寺町1-1-27 tel.06-6771-7641

■【星の市場】詩の学校（天人校)朗読道場
7月20日 日曜 15:00～ ¥1,000
講師：上田假奈代
at AManTO天人 http://www.yura-ism.com/amanto/i/
大阪市北区中崎西1-7-26 tel.06-6371-5840

■詩の放課後
7月3日・17日 すべて木曜 19:00～¥1,000
●中高生のための詩のワークショップ
「声とことばで歩く
どこへ行くというわけでもなく 歩くねん」
8月4日（月）7日（木）8日（金）すべて17:00～19：00
無料／定員：各回15人／対象：中高生
講師：上田假奈代
at 芸術センター http://www.kac.or.jp
京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2
tel：075-213-1000(代) fax：075-213-1004

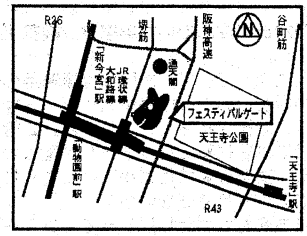
■丘田イージマン＆詩のオーケストラ「夏のことば」
6月27日(金) 19:00ope 20:00start
¥2,000 1ドリンクつき
at チャクラ
大阪市北区菅原町6-12
tel：06-6361-2624
問合せ：ezman@nifty.com
豪華ゲスト陣も参加予定！

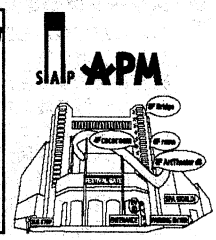
■キャバレー#2
7月10日（木） 18:00open 19:00start
¥2,200（前）¥2,700（当）1ドリンクつき
出演：カゲロヲ、黒子さなえ、上田假奈代ほか
at Art Theater dB
大阪市浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート3F tel. 06-6646-1120

■明倫茶会 「ぽえ茶会」
上田假奈代が席主をつとめます
7月26日（土）13:00/14:30/16:00/17:30
各席20名 ¥1,000
at 京都芸術センター和室「明倫」
申込み〆きり：7月10日（木）まで
芸術センターへ（消印有効）応募多数抽選

ココルームをご活用ください
◎ワークショップetc
11:00～17:00 ¥1,000/1hour 17:00～23:00 ¥2,000/1hour
◎金土日祝は入場料金の50%とドリンクチケット(¥500)の販売
但し¥20,000基本料金

NPO準備委員会
cocoroomでは、アーティストと社会をつなぐ組織づくりを目指し、NPO準備委員会を発足。声とことばをキーワードに、一年後の法人格取得を目指しただいま奮闘中。
ご賛同いただける方、ご協力をお願いします。
ご質問・お問い合わせは、cocoroomまで





地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」
５番出口から直結連絡
大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
JR 環状線・関西線「新今宮駅」東出口すぐ
南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」東出口すぐ
阪堺電軌鉄道「南霞町駅」すぐ http://www.sap-s.jp

編集後記：夏の階段をかけあがって、西成の
夕焼けにしみこんでいく街をみつめる。
空は、どこへつづいているんだろう。

ビールが泡立つからと言って、
この夏を泡のように、忘れてしまわないで。
いちどきりの、太陽は今日も誰かの胸元に沈んでいく。(U)

大阪市浪速区恵美須東3丁目4番36号
フェスティバルゲート4F cocoroom
tel&fax 06-6636-1662 zip556-0002
htpp://www.kanayo-net.com/cocoroom/

●ぽえ犬通信がメルマガになりました●
上記URLからご登録ください